

**留学生別科日本語研修課程における日本事情科目指導の在り方  
— 「日本の歴史」 テーマ別カリキュラムによる指導実践の考察 —**

How the Subject of Japanese Culture and Society Should be Taught  
in the Japanese Curriculum at Extension School for Foreign Students  
— A Study of a Practical Methodology of “Japanese History” —

朝日大学留学生別科 横山 博信

要旨

本稿は、留学生別科日本語研修課程における日本事情科目「日本の歴史」指導の在り方について2016年度・2017年度の2年間の実践を整理・考察したものである。

日本語能力の未習熟な入学直後の留学生に対して、日本事情科目「日本の歴史」は抵抗が大きい授業科目である。2016年度はDVD教材を中心とした「時代順カリキュラム」による指導を実践し、2017年度は新たに「テーマ別カリキュラム」による指導を実践した。2年間の「日本の歴史」授業の教育内容と教育方法の違いと留学生の学修の違いを比較し、「テーマ別カリキュラム」による指導の有効性を明らかにしようとした。

キーワード

日本事情科目      日本の歴史      教育内容・教育方法  
テーマ別カリキュラム（時代順カリキュラム）      教材の精選

## 1. はじめに

朝日大学留学生別科日本語研修課程(以下、「日本語研修課程」という。)における「日本事情科目」指導の課題について、「朝日大学留学生別科日本語研修課程における『日本事情科目』指導の実践的課題」(朝日大学留学生別科 vol. 14 2017年3月)にまとめた。

その要旨は、次のとおりである。

…「日本事情科目」は、1962年4月の文部省「外国人留学生の一般教育等履修の特例について」(通知)により正式な授業科目として位置付けられたが、教育内容・教育方法共に研究者の中で繰り返し問題となってきた授業科目という歴史的経緯がある。

「日本事情科目」の指導に際しては、学修者である留学生が日本語能力の習得が不十分であることに留意すること、次に「教えること」に終始するのではなく、日本の文化、歴史、社会などの「日本事情科目」の学修を通して、留学生自らが知識・体系を構築していくような教育内容・教育方法へと展開することが求められている。

実践的課題として、留学生に示す教育内容の質や量の吟味と「日本事情教授型」、「日本事情発見型」それぞれの教育内容・教育方法の明確化を図ること、更に実践を通して日本語研修課程における「日本事情科目」指導の在り方を確立することが必要である。

本稿では、前述の「朝日大学留学生別科日本語研修課程における『日本事情科目』指導の実践的課題」で参考にした細川(2004)の整理を基に、「日本事情教授型」の教育内容・教育方法を明確にしようと考えた。ここでは、筆者が担当する「日本事情科目」のうち「日本の歴史」指導の教育内容・教育方法について検討する。発表題目及び副題目は、「留学生別科日本語研修課程における日本事情科目指導の在り方 — 『日本の歴史』テーマ別カリキュラムによる指導実践の考察 — 」とした。

## 2. 「日本事情科目」として学ぶ「日本の歴史」指導の問題

日本語研修課程或いは大学学部の「日本事情科目」として位置付けられる「日本の歴史」指導では、〈何を学ぶべきか(何を教えるべきか)〉が明確になっているとは思われない。

それは、日本語教育を担当する教員が主として「日本語科目」指導に重点を置いていること、「テキスト」が少ないこと、大学や日本語教育関係学校ごとの「日本事情科目」開設の数も非常に違いがあることに加えて、「日本事情科目」担当は大学学部の教員が兼務する場合もあり、留学生に対する「日本事情科目」指導の研究が進んでいないことなどが要因として考えられる。

教員側の問題だけではなく、「日本の歴史」の教育内容そのものについても問題を感じている。「日本の歴史」の教育内容は、縄文時代前から始まり、豪族や武士など様々な権力争いを経て江戸時代へ連なり、二度の世界大戦を経験し、現代へ連なる長い歴史が対象となる。「日本の歴史」で扱う「時代」や「人物」、「出来事」、「事件」などは、留学生にとって初めて見聞きする内容ばかりの授業である。

更に、日本語研修課程に入学してくる外国人留学生の日本語能力の未習熟さも大きく関わる。授業者は〈何を教えるか、どのように教えるか、学修者は何を学ぶべきか〉といった教育内容や教育方法について明確にした指導を行う必要がある。

### 2.1 「日本事情科目」の位置付け ～先行研究から～

戸田(1992)は、「大学正規科目としての『日本事情』の取り扱い(I)―理念と内容規定のあり方をめぐって― 3. 『日本事情』の位置付けと方向性」に次のように述べている。

…留学生に日本に関する諸「事情」を教授することは日本人学生へのそれと本質的に異なる部分がある。それは、日本語が一つの外国語として対象化されることが必要であるように、その背景としての日本の諸「事情」も異文化の一つとして把え直さなければならないという点である。この意味において、科目としての「日本事情」は、「異文化としての日本文化」を対象化して教授・学習されるべき日本語教育の科目の一つとして位置付けることができる。

…「日本事情」教育のめざすべき方向性は、留学生の円滑な異文化適応を促進し、意図的・計画的に異文化への視野を拡大・変革させることによりその理解への積極的な態度や能力を養わせつつ、日本語能力の向上をめざすと同時に、日本語の背景としての日本文化や社会に関して日本人が有する包括的知識の蓄積の総体を、対象化及び相対化して提示することによって、日本文化及び母国文化への理解を促す教育機会を提供し、究極的には、世界的視野に立って考え行動しうる人材を育成することにあると考える。

戸田のいう、留学生に対する「日本事情科目」は日本人学生に対するものと本質的に異なり、「異文化の一つとして把え直さなければならない」ことや「日本語の背景としての日本文化や社会に関して日本人が有する包括的知識の蓄積の総体を、対象化及び相対化して提示すること」は、「日本事情科目」指導の要諦となる考え方であろう。

これは大学正規科目についてのものであるが、日本語研修課程における「日本事情科目」指導と重ねて考えることができる。留学生にとって「日本事情科目」は、「異文化としての日本文化」の学習であり、授業者の提示する教育内容から留学生が〈何を学ぶか(何を学ばせるか)〉は重要な課題となる。

## 2.2 日本人学生が学んできている「日本の歴史」の教育内容

「異文化としての日本文化」、「日本語の背景としての日本文化や社会に関して日本人が有する包括的知識の蓄積の総体を、対象化及び相対化して提示すること」とは、縄文時代前から始まる長い歴史を有する「日本の歴史」という授業科目では、どのような教育内容を扱う必要があるのだろうか。

日本人学生は、文部科学省学習指導要領を基に、小学校及び中学校1・2年次に、「日本の歴史」を学んできている。例えば、本大学のある岐阜県岐阜地区採択協議会で現在採択している文部科学省検定教科用図書(歴史)「新編 新しい社会 歴史」(東京書籍)を見ると、中学校では表1に示す単元構成で歴史の学習をしてきている。

表1 「新編 新しい社会 歴史」 単元構成

第1章	歴史の流れをとらえよう
第2章	古代までの日本
	1 世界の古代文明と宗教のおこり
	2 日本列島の誕生と大陸との交流
	3 古代国家の歩みと東アジア世界
第3章	中世の日本
	1 武士の台頭と鎌倉幕府
	2 東アジア世界とのかかわりと社会の変動
第4章	近世の日本
	1 ヨーロッパ人との出会いと全国統一
	2 江戸幕府の成立と鎖国
	3 産業の発達と幕府政治の動き

第5章	開国と近代日本の歩み
1	欧米の進出と日本の開国
2	明治維新
3	日清・日露戦争と近代産業
第6章	二度の世界大戦と日本
1	第一次世界大戦と日本
2	世界恐慌と日本の中国侵略
3	第二次世界大戦と日本
第7章	現代の日本と世界
1	戦後日本の発展と国際社会
2	新たな時代の日本と世界

この教育内容を見ると、日本人に対する歴史学習は、アジア大陸から分離し島国日本として地理的に形成された以降の古代から現代に至る長い歴史が網羅されており、日本や日本人のアイデンティティに関わる基本的な教育内容となっている。

しかし、留学生が学修すべき「日本の歴史」は、日本人が小学校及び中学校などで学ぶすべてが必要なわけではない。戸田の「留学生の円滑な異文化適応を促進」することであり、「日本文化及び母国文化への理解を促す教育機会を提供」することにあると考えるべきである。留学生が僅か半年(厳密に言えば僅か3カ月程)の期間に「日本の歴史」を学ばなければならないのである。授業者にとって<何を学ばせるか>といった教育内容の検討は大きな課題となる。

### 2.3 留学生に対する「日本事情『日本の歴史』」学修の意義

小林(2009)は、留学生の「日本事情」科目の課題について次のように整理している。

…「日本事情」科目群は彼らの日本に於ける生活を早期に円滑ならしめるという趣旨より、留学生別科、大学学部の前段階に設置されている場合が多く、その意味で、多くの留学生にとっては十分な日本語運用能力の獲得が未完成な段階に於いて学習することとなり、教授する側としては、対象となる留学生の正確な学習段階の把握(特に日本語運用能力の)と特段の教育的手法や経験、それに最後まで諦めない?という熱意も必要である。

小林的いう、「日本語運用能力の獲得が未完成な段階」における「日本の歴史」学修であることは、日本語研修課程で教鞭をとる立場から大きな課題として感じるところである。

留学生にとって、「日本の歴史」は初めて学ぶ外国史であり、「時代」や「人物」、「出来事」、「事件」などすべてが新しい知識の学修となる。筆者を含め、私たち日本人が西欧やアジアなどの歴史をどれほど学んできたかと振り返れば、非常に限られた「人物」や「出来事」しか思い描けないことから容易に想像することができる。

しかしながら、日本語研修課程に学ぶ留学生は日本の大学や専門学校へ進学したり、日本関連の企業へ就業したりすることを願って入学している。動機は学生それぞれであるが、現代の日本や日本人を形成してきた「日本の歴史」を学ぶ必然性は少なからず持っているはずである。留学生が日本社会に馴染み日本人と共に学んだり働いたりするためには、日本人にとっては常識となっている歴史的事実や背景(戸田のいう「日本人が有する包括的知識」)を学修することは極めて意義があるからである。

留学生にとって意義がある「日本の歴史」学修ではあるが、授業者にとって、どのような教育内容を、どのような教育方法で授業を行うかは大きな課題である。

### 3. 「日本事情科目」の「日本の歴史」で学ぶべき内容

#### 3.1 「日本の歴史」における「学ぶべき重要語句」

日本人にとって常識となっている歴史的事実や背景の観点から、留学生にとって「学ぶべき重要語句」を、表1「新編 新しい社会 歴史」から筆者なりに抽出すると表2になる。

表2 日本人にとって常識となっている歴史的事実や背景

「新編 新しい社会 歴史」東京書籍	学ぶべき重要語句
第1章 歴史の流れをとらえよう	
第2章 古代までの日本 1 世界の古代文明と宗教のおこり 2 日本列島の誕生と大陸との交流 3 古代国家の歩みと東アジア世界	貝塚 稲作の伝播 定住 古墳 仏教伝来 法隆寺 卑弥呼 聖徳太子 古事記 平城京 奈良の大仏 日本書紀
第3章 中世の日本 1 武士の台頭と鎌倉幕府 2 東アジア世界とのかかわりと社会の変動	平安京 天皇 貴族 武士 仮名文字 源平合戦 元寇 倭寇
第4章 近世の日本 1 ヨーロッパ人との出会いと全国統一  2 江戸幕府の成立と鎖国  3 産業の発達と幕府政治の動き	戦乱の世 下剋上 種子島 三英傑(織田・豊臣・徳川) 関ヶ原の戦い 幕藩体制 武家諸法度 禁中並公家諸法度 大名(親藩・譜代・外様) 鎖国 町人文化(元禄文化) 三大改革 黒船来航(ペリー)
第5章 開国と近代日本の歩み 1 欧米の進出と日本の開国 2 明治維新  3 日清・日露戦争と近代産業	大政奉還 開国 薩長同盟 明治維新 立憲政治 廃藩置県 四民平等 文明開化 富国強兵 産業の発達 日清・日露戦争
第6章 二度の世界大戦と日本 1 第一次世界大戦と日本 2 世界恐慌と日本の中国侵略 3 第二次世界大戦と日本	第一次世界大戦 世界恐慌 日中戦争 大東亜戦争(太平洋戦争) 原爆(広島・長崎)
第7章 現代の日本と世界 1 戦後日本の発展と国際社会 2 新たな時代の日本と世界	戦後の再出発 平和憲法 東京オリンピック

#### 3.2 「日本の歴史」における「学ぶべき重要語句」のテーマ別整理

西井(2002)は、『日本事情』科目の意義に関する一考察において、日本事情の教材を、「網羅・概説型、トピック型、専門テーマ型、「日本研究」の研究、外国語による概説書」の5つの分類があるとしている。

表2のように時代順に幾つもの重要語句を提示する授業は、西井のいう「網羅・概説型」の教材と位置付けられるものであろう。日本語能力の未習熟な留学生にとっては抵抗の大きいも

のと考えられる。次々と登場する「時代」や「人物」、「事件」は初めて知るものであり、日本語研修課程における「日本の歴史」15回の授業では、何を学んだかよく分からない恐れがある膨大な教育内容である。

時代順で授業を行う「時代順のカリキュラム」では、日本語能力の未習熟な留学生にとって「日本事情」の歴史を理解することは難しいと言わざるを得ない。

水谷他(1995)は、「日本事情ハンドブック」に次のように述べている。

…学習者にとって必要なのは、単に知識を受けとめるということではなく、主体的に日本の文化・社会に参加し、主張もできる能力を身につけることであって、そのためには、教室の規模や形態へ配慮することから始まり、学習者の求めているものを積極的に引き出し、知的興味をかきたてることのできる教室活動や教材の準備が重要となる。

授業者にとっては、「日本の歴史」に関わる「人物」や「事件」などを単に知識として提示するだけではなく、知的興味を引き立てることができる学修として提示できるかが課題と言える。

西井の分類そのものではないが、「専門テーマ型」のように「日本の歴史」をテーマに絞って考えると、留学生が学びやすい授業になると考えた。つまり、「権力者の誕生」、「権力の象徴」、「外国と日本」、「政治の中心」、「日本の文化」などのテーマを設定し「日本の歴史」を鳥瞰するような「テーマ別カリキュラム」が有効ではないかと考えを進めた。テーマごとに授業を仕組めば授業で扱う語句も整理できであろうし、日本の歴史のダイナミズムも理解しやすくなるであろう。留学生の既習の知識を引き出したり、テーマに関わる事前の調べ学修を行わせたりして、知的興味をかきたてるような学修につながるのではないかと期待したい。

ここで、表2の「学ぶべき重要語句」を、テーマ別に表3に整理した。

表3 日本や日本人にとって常識となっている歴史的事実や背景のテーマ別整理

<権力者の誕生>	・貝塚 ・稲作の伝播 ・定住 ・権力者 ・卑弥呼
<権力の象徴①>	・古墳 ・平城京 ・法隆寺 ・奈良の大仏 ・平安京 ・天皇 ・貴族 ・古事記 ・日本書紀
<権力の争い①>	・仏教伝来 ・戦乱の世 ・下剋上 ・三英傑 ・関ヶ原の戦い
<外国と日本①>	・仏教伝来 ・遣隋使遣唐使 ・漢字の伝来 ・種子島 ・元寇 ・倭寇 ・鎖国
<日本の文化①>	・仏教伝来 ・万葉仮名 ・仮名文字
<政治の中心①>	・卑弥呼 ・聖徳太子 ・平城京 ・平安京 ・鎌倉 ・江戸(京都) ・徳川家康
<権力の象徴②>	・城 ・武家諸法度(参勤交代) ・禁中並公家諸法度 ・幕藩体制
<日本の文化②>	・元禄文化 ・明治維新
<権力の争い②>	・三大改革 ・黒船来航 ・薩長同盟 ・開国 ・日米修好通商条約 ・大政奉還
<政治の中心②>	・明治維新 ・立憲政治 ・廃藩置県 ・四民平等 ・帝国議会
<外国と日本②>	・富国強兵 ・産業の発達 ・日清・日露戦争 ・世界恐慌 ・第一次世界大戦 ・第二次世界大戦 ・原爆
<現代の日本>	・象徴としての天皇 日本国憲法(平和憲法) ・経済の発展

#### 4. 「時代順カリキュラム」と「テーマ別カリキュラム」による指導の比較

2016年度と2017年度それぞれ前期に、日本事情「日本の歴史」の授業を実施した。2016年

度の「時代順カリキュラム」実践の課題を整理し、2017年度は「テーマ別カリキュラム」により授業を実施した。その教育内容と教育方法の違い、学生の理解の違いについて考察する。

指導した留学生受講者人数と国別の内訳は以下のとおりである。

2016年度前期受講生 14名

入学期	人数 (性別)	出身国別
2015年秋期	7 (男子4 女子3)	ベトナム6 中国1
2016年春期	7 (男子4 女子3)	ベトナム6 中国1

2017年度前期受講生 17名

入学期	人数 (性別)	出身国別
2016年春期	1 (男子1)	ベトナム1
2016年秋期	13 (男子9 女子4)	ベトナム12 モンゴル1
2017年春期	3 (男子2 女子1)	ベトナム1 ミャンマー2

#### 4.1 実践I (2016年度実践) 「時代順カリキュラム」の指導計画

2016年度実践は、主教材として使用したDVDを中心に、「時代順カリキュラム」により指導した。表4は、使用したDVD「いま蘇る 日本の歴史」10巻の構成である。

表4 DVD「いま蘇る 日本の歴史」

①縄文・弥生・古墳時代	・縄文人と弥生人～卑弥呼と邪馬台国
②飛鳥・奈良時代	・仏教と聖徳太子～シルクロードと遣唐使
③平安時代	・最澄と空海～撰閣政治と源氏物語
④鎌倉時代	・源頼朝と武家政権の確立～北条時宗と元寇
⑤室町時代	・足利尊氏と南北朝～下剋上・応仁の乱
⑥戦国・安土桃山時代	・織田信長と天下布武～太閤秀吉の天下統一
⑦江戸時代	・徳川家康と関ヶ原の合戦～江戸幕府の成立と大坂の陣
⑧江戸時代	・花開く元禄文化と赤穂浪士～天明の大飢饉と幕政改革
⑨幕末・明治時代	・ペリー黒船来航～西郷隆盛と明治維新
⑩明治時代	・自由民権と大日本帝国憲法～日清戦争と日露戦争

2016年度実践では、上記①から⑩のDVD視聴を中心に全15回の授業を行った。DVD視聴時間はそれぞれ30分間程必要であった。また、⑤と⑥の間に日本の歴史前半のまとめの授業を、⑨と⑩の間に日本の歴史のまとめの授業を位置付けた。

#### 4.1-2 「時代順カリキュラム」による授業実践 (1時/全15時)

「時代順のカリキュラム」による2016年度実践として、「日本の歴史」指導の第1時は以下のとおりであった。

指導目標	歴史のスタート: 縄文・弥生・古墳時代から稲作の開始と貧富の差が生まれたことを理解しよう。(1時/全15時)
指導過程	①DVD「いま蘇る 日本の歴史 縄文人と弥生人～卑弥呼と邪馬台国」視聴 ②・アフリカ 猿人から原人 移動し続ける人類 ・氷河期～間氷期 大陸から日本へ移住 ・定住…石器文化から縄文文化へ 三内丸山遺跡 縄文式土器の製作 ・紀元前4世紀頃 弥生文化のスタート 稲作の発展 村の誕生(門・堀・柵) 外敵への備え 支配する者と支配される者 貧富の差

<ul style="list-style-type: none"> <li>・2世紀末 卑弥呼と邪馬台国</li> <li>・3世紀後期 古墳時代の始まり 大和政権</li> </ul> ③授業のまとめ (レポート作成)
---

#### 4. 1-3 実践 I (2016 年度実践) の考察

実践を振り返ると、正に西井のいう「網羅・概説型」の授業であり、授業者として幾つかの課題を感じた。2016 年 4 月生と 2015 年 9 月生のまとめレポートを紹介する。

2016 年 4 月生 JS16●●

縄文人：人類が誕生→日本へ石器 →定住 縄文式土器 弥生時代：稲作→米づくり 米が財産=貧富の差が生まれる →階級 倭の国=日本 卑弥呼と邪馬台国 権力を表す
---

2015 年 9 月生 JA15●●

縄文時代：日本の考古学上の時代。縄文土器を製作、使用した時代。 弥生時代のはじまりは紀元前 300 年頃、終わりは紀元後 300 年頃というのが、これまでの通説です。 稲作=米づくり 米が財産となる。 古墳時代は、日本列島において古墳築造が卓越した時代を意味する。卑弥呼を邪馬台国です。
--

授業実施日は、入学直後の 4 月 11 日であった。2016 年 4 月生(JS16●●)のまとめレポートは、筆者の板書を丸写しするものであった。多くの学生が同様のまとめレポートを作成していた。一方、2015 年 9 月生(JA15●●)のまとめレポートは、「考古学上の時代」など下線部のように学生自身が調べた内容も書き加えられていた。

留学生別科に入学したばかりの 2016 年 4 月生と半年余り学修した 2015 年 9 生の日本語能力の違いは大きく感じられた。授業後に感じた課題は以下のとおりである。

- ・DVD の視聴を講義の中心に位置付け授業を行った。しかし、留学生にとって日本人向けの DVD は、映像も音声も理解することが難しいものであった。次々と映像が展開し、留学生にとって聞きなれない音声が流れた。その結果、授業者は頻繁に視聴を中断しては重要語句を板書に押さえ確認することが必要となった。
- ・縄文時代と弥生時代という時代区分はもちろん、人物や出来事などの情報があまりに多く、留学生にとって何が重要なかが分かりにくいものになってしまった。
- ・留学生のまとめレポートは、授業者の配布した教材プリントや板書を丸写しする学生がほとんどであり、理解したり想像したりすることができているとは言えないものになった。語句と語句の関係性が理解できていなかったり、単語をただ列記したりするようなまとめレポートが多く見られた。2015 年 9 年生のように自分でスマートフォンを使って調べた内容をまとめて書いた学生もいたが、これも授業内容のまとめとはいえないものである。

坪山他(2010)が、『映像(動画)を使う』ことは時間がかかる、「気づく・考える」活動をするためには何度も見直す必要がある」と指摘していることを実感した指導であった。

留学生たちに、視覚的・聴覚的に未習の日本語を画像と音声で浴びせるように提示した授業であったと反省するばかりである。この授業は、全く「網羅・概説型(知識教授型)」の授業であり、留学生たちにとっては受け身な姿勢にならざるを得ない授業であった。

#### 4. 2 実践 II (2017 年度実践) 「テーマ別カリキュラム」の指導計画

2017 年度実践は、「表 3 日本や日本人にとって常識となっている歴史的事実・背景のテーマ



マ別整理」を基に、表5「テーマ別カリキュラム」を作成し指導した。

表5 テーマ別カリキュラム

①権力者の誕生	・縄文時代から弥生時代へ 〈なぜ、門や堀、柵が必要だったか〉
②権力の象徴その1	・弥生時代から古墳時代・飛鳥時代・奈良時代へ 〈どのようにして、奈良の大仏と東大寺を造ったのか〉
③権力の争いその1	・古墳時代・飛鳥時代から平安・鎌倉時代へ 〈源氏と平家の争いから、どのような時代が変わったか〉
④権力の争いその2	・戦国時代から江戸時代へ 〈全国各地の戦国大名は、どうして争ったのか〉
⑤外国と日本その1	・飛鳥時代・奈良時代から鎌倉・安土桃山時代、江戸時代へ 〈日本はどのような国とどのような交流をしたか〉
⑥日本の文化その1	・古墳時代・飛鳥時代から平安時代へ 〈漢字から平仮名・カタカナはどのように発明されたのか〉
⑦政治の中心その1	・古墳時代から平安時代へ 〈平城京から平安京への遷都は、なぜ行われたのか〉
⑧権力の象徴その2	・江戸時代 〈徳川幕府になって全国各地の戦国大名はどうなったか〉
⑨日本の文化その2	・江戸時代 〈江戸時代に発達した日本の文化はどのようなものか〉
⑩外国と日本その2	・江戸時代から明治維新へ 〈15代続いた徳川幕府は、どうして滅びてしまったのか〉
⑪政治の中心その2	・明治時代 〈明治維新以降、日本の政治はどのように変わったか〉
⑫外国と日本その3	・明治時代から昭和時代へ 〈明治維新以降、日本はどのような発展をしたか〉
⑬現代の日本	・昭和時代から平成時代へ 〈現代の日本は世界からどのように見られているか〉

2017年度実践では、上記①から⑬のテーマを中心に全15回の授業を行った。⑦と⑧の間に日本の歴史前半のまとめとして歴史年表の作成の授業、日本の歴史の⑬後には歴史年表の完成の授業を位置付けた。

#### 4.2-2 「テーマ別カリキュラム」による授業実践（1時/全15時）

2017年度の「テーマ別カリキュラム」による「日本の歴史」指導の第1時は以下のとおりである。

指導目標	〈権力者の誕生〉 縄文時代から弥生時代 (1時/全15時) 支配する者と支配される者が誕生した弥生時代以降、支配する者と支配される者との歴史を考えてみよう。
指導過程	①「支配する者と支配される者」…どのような人間関係のところで、支配する者と支配される者の関係があるだろうかについて考えてみよう。 ・会社や家族、その他の場における支配する者と支配される者、狭い意味で上下関係の存在について交流する。 ②「日本の歴史」から、支配する者と支配される者との歴史を理解しよう。 ・縄文文化から弥生文化へと移る中で、稲作が発展し村が誕生する ・村…門や堀、柵が設けられた 〈なぜ、門や堀、柵が必要だったか〉

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人々の役割分担から、権力を持つ者が生まれ、支配する者と支配される者が生まれた</li> <li>・権力者の誕生 100の国→30の国 卑弥呼と邪馬台国 古墳時代</li> <li>・その後の「貴族と荘園」などの権力者の歴史に触れる</li> </ul> <div style="border-left: 1px solid black; border-right: 1px solid black; padding: 0 10px; margin-left: 20px;"> <p>〔生産される米が、明治の地租改正に至るまで税として徴収されることから 米の生産が国としての根幹を成してきたことに言及する。〕</p> </div> <p>③授業のまとめ</p>
--	---

「授業で期待したこと」は次のとおりである。

- ①「テーマ別カリキュラム」による授業を仕組み、テーマ(この授業の場合、「支配する者と支配される者」或いは「権力者の誕生」)が浮き彫りになり、結果、重要語句を絞った知識と歴史的事実の学修になるのではないか。
- ②テーマに沿って重要語句を絞った結果、授業者が提示する写真や図、絵などの教材も限定することができ、留学生にとって視覚的にも理解しやすいものになり、情報の氾濫による理解の混乱を防ぐことができるのではないか。
- ③テーマ設定することによって、留学生が事前に下調べをすることが可能になる。このことは、教授型(学修者の受け身な姿勢)ではなく、留学生の主体的な学びを期待できるものとなる。この事前学修が位置付くことで、留学生同士の意見交流も生み出しやすいのではないか。
- ④結果、日本社会で生活する中で、日本人同士の会話の中に登場する歴史にかかわる基本的な事項を重点的に学修することができるのではないか。

#### 4. 2-3 実践Ⅱ(2017年度実践)の考察

2017年度「テーマ別カリキュラム」では、以下に示す、導入・展開・終末の「基本的な指導過程」による実践を行った。

- ・導入過程…前時のまとめ及び事前の調べ学修の交流
- ・展開過程…テーマに沿った日本の歴史の学修
- ・終末過程…まとめプリントの作成

また、指導過程に即した「実践評価の観点」を位置付けた。

	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 事前の調べ学修は、学生の主体的な学びを促すものであったか。</li> <li>(2) テーマを絞ったことは、重要語句相互の関わりを明確にし、学生の理解を促すものになったか。</li> <li>(3) 視聴覚教材は、学生の理解を促すために効果的であったか。</li> <li>(4) 学修のまとめは、時代別カリキュラムによるものとどのように異なったか。</li> </ol>
--	---

この「実践評価の観点」を基に、「日本の歴史」の第1時「<権力者の誕生 縄文時代から弥生時代へ>(1時/全15時)」の実践について考察をしていきたい。

- (1) 事前の調べ学修は、学生の主体的な学びを促すものであったか。
  - …「支配する(支配される)」や「権力(者)」について、現代につながるものとして意味を感じ取れる事前の調べ学修になっていたか。
  - 事前の調べ学修プリントとして、「支配する(支配される)」が理解しやすいよう写真を利

用しようとした。具体的には、図1の事前の調べ学修プリントで交流を図った。

図1 事前の調べ学修プリント

授業の導入では、図1の( )の言葉を埋めることから始め、「上・大きい・強い」の対義語を埋め、「大きい猫は……」と「小さい猫は……」と書きまとめさせ、「支配する(支配される)」の関係性を考えさせた。

個人作業と交流により、どの学生も「支配する(支配される)」の力関係はとらえられていた。

学生は、「支配する(支配される)」の理解について、次のように書いている。

**JS17●●** 大きな猫が小さい猫を押さえている。小さい猫が大きな猫に押さえられている。上の猫は強いです。下の猫は弱いです。大きな猫は小さい猫をいじめている。

学生たちは、1枚の写真から「支配する(支配される)」や「権力(者)」のイメージを膨らますことができ、テーマに迫る構えができたと考えたい。

(2) テーマを絞ったことは、重要語句相互の関わりを明確にし、学生の理解を促すものになったか。

…「稲作」から生まれた「富」を持つ者とそうでない者との関係、「米」を守る争い、女王卑弥呼と邪馬台国の誕生など「支配する者と支配される者」を理解することができたか。

図2 補助教材 歴史ノート

学生の理解を促すため、図2の補助教材を位置付けた。本時<権力者の誕生>授業では、右に示す補助教材「歴史ノート」を使用し指導過程でメモを取る時間を位置付けた。

そして授業終末に、「まとめプリント」を書かせ、学生の理解を評価しようと考えた。

本授業では、「稲作の伝播」と「米を守る・権力者の誕生」の2回、授業の中でメモを取る時間を位置付けた。

2016 年度と 2017 年度の実践から、「日本の歴史」（1 時/全 15 時）のまとめプリントの使用語句について比較・考察をしたい。

2016 年度「時代順カリキュラム」のまとめプリントの使用された語句

石器時代 縄文(人)時代 弥生時代 古墳時代  
 大陸から日本へ移動してきた人間 石器 三内丸山遺跡 穀物 縄文式土器  
 米づくり(稲作) 米が財産 定住 貧富の差(大人・下戸・奴婢) 階級  
 紀元前 300 年から 倭の国 卑弥呼と邪馬台国 王の時代 権力 古墳

2017 年度「テーマ別カリキュラム」のまとめプリントの使用された語句

縄文時代 弥生時代  
 動物と魚と木の実 米づくり(稲作) 定住  
 どろぼうや動物から米を守る 財産 堀と柵  
 100 の国 戦争 30 の国 卑弥呼と邪馬台国

2016 年度、2017 年度のまとめプリントを比較すると、2016 年度の実践では、DVD の視聴により情報が多く、語句相互の関係性や重要語句が分かりにくいものとなっていたことが分かる。一方、「テーマ別カリキュラム」により指導した 2017 年度の実践では使用語句は限定されており、米を「つくる・守る」ことがまとめプリントの中心となっている。

(3) 視聴覚教材は、学生の理解を促すために効果的であったか。

…テーマを理解するための視聴覚教材として効果的であったか。

2016 年度の実践では、次々と展開する DVD の映像と音声教材の中心であるから、日本語能力が未習熟な学生にとって内容を理解することは難しいものであった。その結果、DVD を中断し板書で補足・確認しながらの視聴とならざるを得なかった。

2017 年度の実践では、テーマに沿った写真や図、絵などを提示して考えさせることに重点を置いた。使用した教材は、「稲穂の写真」・「稲作の伝播の図」・「吉野ヶ里遺跡の復元写真」・「邪馬台国の卑弥呼の絵」の 4 枚の写真や図、絵である。視聴覚教材として〈何を視聴させるか〉は、2016 年度の実践の反省を踏まえ〈何を見せないか(何を省くか)〉を考えた結果、上記の 4 枚の教材に絞った。言語情報以外の教材を精選することが学生の理解をより深めることにつながると考えた。

(4) 学修のまとめは、時代別カリキュラムによるものどどのように異なったか。

…テーマに即したまとめであったかどうか。羅列的・網羅的なまとめになっていないか。

2017 年 4 月生と 2016 年 9 月生のまとめレポートを紹介する。

2017 年 4 月生 JS17●●

2016 年 9 月生 JA16●●

<p>縄文時代は紀元前 300 年の時代です。その時代に人は動物と魚と木の実を食べました。その時代は米を知りません。弥生時代は 50 年後で時代です。紀元前 250 年も時代です。あの時代はどろぼうや動物とてきから米を守るために堀と柵をしました。そのために 100 の国はしました。100 の国の 30 の国は戦争を始めました。戦争に一番強い国は邪馬台国です。一番強い国の女王は卑弥呼です。              (原文のまま)</p>	<p>縄文時代には人は動物と魚と木の実が食べていました。そして弥生時代からお米を食べるになりました。それから決まった場所に住むようになりました。弥生時代に世界は三つの食べ物を食べていた。米と小麦とトウモロコシコーン。お米を作る人はどろぼうや動物から米を守るために堀と柵を作った。100 の国がせんそうして 30 の国がなりました。一番強いのは邪馬台国です。邪馬台国の女王は卑弥呼です。              (原文のまま)</p>
--	---

「テーマ別カリキュラム」によるまとめレポートを見ると、2017年4月生、2016年9月生共に文章としてまとめることができている。また、まとめの使用語句についても類似性を多く見出すことができる。「縄文時代……」、「人は動物と魚と木の実を食べ……」、「どろぼうや動物…から米を守るために堀と柵…」、「100の国」、「30の国」、「戦争(せんそう)」、「一番強い」、「邪馬台国」、「女王は卑弥呼」である。

このまとめレポートを通して、テーマである「権力者の誕生」について、財産である米を守ること、そのために戦争をしたことなどを理解することができたと考えられる。

## 5. まとめと今後の課題

2016年度「時代順カリキュラム」と2017年度「テーマ別カリキュラム」によるまとめレポートを比較・考察してみたい。共に4月入学直後の学生のものである。

「時代順カリキュラム」による指導 2016年4月生 JS16●●	「テーマ別カリキュラム」による指導 2017年4月生 JS17●●
縄文人：人類が誕生→日本へ石器 →定住 縄文式土器 弥生時代：稲作→米づくり 米が財産=貧富の差が生まれる →階級 倭の国=日本 卑弥呼と邪馬台国 権力を表す	縄文時代は紀元前300年の時代です。その時代に人は動物と魚と木の実を食べました。その時代は米を知っていません。弥生時代は50年後の時代です。紀元前250年の時代です。あの時代はどろぼうや動物とてきから米を守るために堀と柵をしました。そのために100の国はしました。100の国の30の国は)戦争を始めました。戦争に一番強い国は邪馬台国です。一番強い国の女王は卑弥呼です。(原文のまま)

上記左の「時代別カリキュラム」による2016年4月生(JS16●●)のまとめレポートは、板書の写しが中心であり、語句(単語)の羅列が目につくところである。語句と語句の関係性を示す記号(→・=)は板書の写しであり、内容を理解しているとはいいがたいまとめである。「縄文人」と「弥生時代」の表記のように、対比した語句についても理解できているか怪しいところである。

一方、上記右の「テーマ別カリキュラム」による2017年4月生(JS17●●)のまとめレポートは、文章としてまとめることができている。文と文の関係について指示語を多用したり、表記の誤りもみられたりはあるが、内容については「米」を中心に権力者が誕生していった縄文時代から弥生時代、古墳時代への流れを理解していると考えたい。

この2つのまとめレポートの違いを生じさせたものは何か。「時代順カリキュラム」と「テーマ別カリキュラム」の教育内容及び教育方法の違いから考察する。

### (1) 教育内容

- ・2016年度の「時代別カリキュラム」による実践はDVD視聴が中心であり、その内容は豊かではあるが情報量が多すぎた。そのため、筆者は授業途中で視聴を中断しながら重要語句を板書し学生たちの理解を促したり確かめたりする必要が生じた。また、DVD視聴は、画面から一方的に流される画像と音声による説明であり、留学生は受け身な姿勢を

強要されるものであった。結果、内容理解は不十分なものとなったと考える。

- ・2017年度の「テーマ別カリキュラム」による実践は、縄文時代・弥生時代のテーマを「権力者の誕生」として教材(4枚の写真や図, 絵)の使用を絞り込んだことにより、留学生の反応を確かめながら授業を進めることができた。「稲作(稲の伝播)」によって縄文人の定住が進み、「稲(米)を守るため」堀や柵を造り、やがて「権力者」が誕生するという日本の歴史のスタートを理解しやすい教育内容となった。限られた教材の使用であったことから、内容理解も深めることができた。

## (2) 教育方法

- ・2016年度の30分間程度必要であったDVD視聴と2017年度の限定した教材(4枚の写真や図, 絵)の提示という違いは、留学生が内容を十分に理解するための時間の確保という点で大きな違いがあった。時間に余裕が生まれたことは、学修の過程で補助教材による書きまとめの時間の位置付けを可能にし、学生の理解を確かめる手立てとなった。授業後の「まとめプリント」もテーマ「権力者の誕生」に沿ったものとしてまとめることができたと考えられる。

以上の比較・考察から、「テーマ別カリキュラム」による指導は、日本語能力が未習熟な留学生にとって有効な手立てと考えたい。テーマ別に精選した教育内容の学修となり、限定した教材と語句の使用により留学生の内容理解を深めることにつながったと考える。また、補助教材を学修過程に位置付けたことは、学生たちの理解を確かめる中間評価の手立てとなり、授業後のまとめプリントの内容にもつながったと考える。

今後は2017年度の実践を基に、15回の授業のテーマ設定の吟味、並びに教育内容と提示する教材の精選、補助教材の検討を進め、日本事情科目「日本の歴史」のテーマ別カリキュラムによる指導を確立していきたい。

## <参考文献>

- ・横山博信 「朝日大学留学生別科日本語研修課程における『日本事情科目』指導の実践的課題」 朝日大学留学生別科紀要 vol14(2017年3月)
- ・細川英雄 「日本語教育は何をめざすかー言語文化活動の理論と実践ー」(2004年)
- ・戸田利彦 「大学正規科目としての『日本事情』の取り扱い(I)ー理念と内容規定のあり方をめぐってー」 比治山女子短期大学紀要第26号(1992年3月)
- ・東京書籍 「新編 新しい社会 歴史」(平成28年度~31年度使用)
- ・小林健彦 「留学生による日本語, 日本史用語運用に於ける課題克服に関する一考察」新潟産業大学経済学部紀要第37号(2009年11月)
- ・西井和弥 「『日本事情』科目の意義に関する一考察」 名古屋商科大学コミュニケーション学部研究紀要 Vol.4 No.2(2002年11月)
- ・水谷修 他 「日本事情ハンドブック」 大修館書店(1995年10月)
- ・坪山由美子 他 「日本事情・日本文化を教える」 国際交流基金日本語教授法シリーズII (2010年5月)

(朝日大学留学生別科日本語研修課程教授)